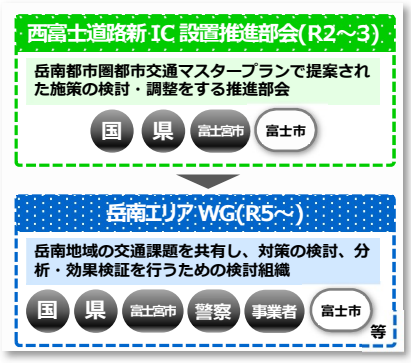
建設消防委員会協議会
令和 7 年 7 月 28 日
建設部建設総務課

国道 139 号西富士道路新 IC 整備事業について

1 新 IC 整備に向けたこれまでの取組

- 西富士道路は、昭和 57 年に日本道路公団によって総延長 6.8km の有料道路として整備され、平成 24 年の無料開放後に国土交通省に移管された。
- 無料化に伴う交通量の増大による渋滞のほか、平成 27 年度から令和 5 年度（9 年間）に、鷹岡地区行政懇談会等から新 IC 設置に関する要望が寄せられたことを受け、利用の拡大や交通の利便性向上に向けて、事業化の検討が開始された。
- 平成 31 年 2 月には、静岡県が策定した「岳南都市圏都市交通マスタープラン」において、広域的な連携・交流を促進する施策の一つとして、「西富士道路の新たなインターの設置」が位置付けられた。
- 「岳南都市圏都市交通マスタープラン連絡調整会議」の下部組織として、令和 2 年 7 月に「西富士道路新 IC 設置推進部会」を設置し、令和 3 年度末までに 4 回の検討が行われた。
- 令和 4 年度から国・県に対して、新 IC 設置に関する要望活動を進めてきたが、国直轄による早期事業化は困難であることが判明したため、市が主体での検討を開始した。
- 令和 5 年度は、国への要望のほか関係機関（国・県・警察等）との協議を実施するとともに、富士市・富士宮市の交通課題解決を目的とする「静岡県道路交通渋滞対策推進協議会岳南エリア WG」において検討が進められた。
- 令和 6 年度には、引き続き国への要望のほか、測量及び概略設計を実施し、新 IC のランプ形状や概ねの構造を検討しながら、関係機関との協議を進めた。



2 新 IC の必要性

- これまでの新 IC 整備に向けた検討や本市の問題点・課題を踏まえ、国道 139 号西富士道路における新 IC の必要性を、「**❶産業活動の支援**」、「**❷交通渋滞の緩和**」、「**❸防災機能の強化**」、「**❹地域活性化・観光振興**」という 4 つの視点から整理・取りまとめる。

❶産業活動の支援
- 富士市は多様な産業が集積する工業都市である。
- 富士山フロント工業団地等の立地企業が持続的に操業を続けていくためには、国道 139 号西富士道路を活用したアクセス性・効率性の向上による、企業の更なる発展が必要である。

❷交通渋滞の緩和
- H24 の無料化以降、交通量は増大し、富士 IC 交差点や小泉若宮交差点が主要渋滞箇所となっている。
- 交通渋滞の緩和には、交通分散による周辺道路の交通量減少や交通利便性の向上が必要である。

❸防災機能の強化
- 広見 IC～小泉若宮交差点間の約 5.2km において、出入口が設置されていない。
- 大規模災害時には、防災拠点・救護病院へのアクセス性や交通状況に応じた変更ルートの確保が必要である。

❹地域活性化・観光振興
- 地域の活性化及びブランド力向上を図るためには、新たな土地利用などを呼び込む、周辺地域へのアクセス強化を進める必要がある。
- また、観光拠点・スポット等へのアクセス性が向上することで、観光客や周辺サービス利用の増加に繋がる。

新 IC の整備

整備により期待される効果

【7.事業効果の整理】に詳細を記載

3 新 IC 整備予定地の選定

- 新 IC の整備箇所については、様々な観点からの必要性や妥当性等を考慮し選定を行った。

主な選定理由	整備予定地
✓ 西富士道路の渋滞緩和のため、新 IC はアクセス制限区間（広見～小泉若宮）の中央付近 ✓ 産業経済活動の更なる発展を図るため、新 IC は工業団地の近隣に配置 ✓ IC にアクセス可能な道路を有する箇所 ✓ フル IC 化移行時の周辺への施工影響を最小化できる立地環境 ✓ 災害時の応急復旧活動等を考慮した、防災拠点からの近接性	諸条件をクリアする候補地を選定

4 新 IC の形式及び形状

- 新 IC の事業計画に際しては、新東名高速道路の側道を通じてのアクセスが多い鷹岡・天間地区、富士山フロント工業団地や新富士ＩＣ周辺の物流団地への接続のほか、富士商工会議所をはじめとした地元経済界から早期実現の要望への対応。
- これらの状況に対して費用便益比（B/C）や新 IC 整備に伴うストック効果等を踏まえ検討した結果、用地買収の必要性がなく早期に実現が可能で富士市民の利便性にも寄与するハーフ IC 形式での事業推進を図るものとした。
- 本事業では、将来のフル IC 化を見据え、**富士市街方面へ向かう交通の入口（ON ランプ）**と**富士市街方面からの交通の出口（OFF ランプ）**を設置する計画とした。

地域の声

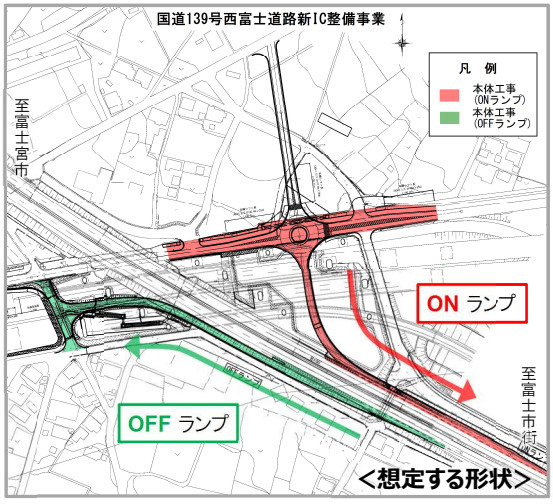
鷹岡地区からは行政懇談会の場において、平成 27 年度から 9 年連続でインターチェンジの設置を要望

周辺企業の声

多くの企業が、富士市内の南北方向の移動を不便に感じ、西富士道路の機能強化を期待

地元経済界の声

地域交通課題の解決や産業経済活動の推進を図ることができる施策だと認識しており、産業界の総意として、早期の実現を強く期待



ハーフ IC（インターチェンジ）とは・・・

通常、高速道路のインターチェンジは４本のランプ（上下線それぞれの出入口）を持つが、ハーフ IC では２本だけを設け、目的に応じて進入・退出できる方向を限定したものである。

◆特徴◆

- ■ 建設・維持管理コストの抑制
- ■ 環境負荷の低減
- ■ 着工から開通までの工期短縮
- ■ 将来のフル IC 化・ランプ追加 に対応　等

5 概算事業費について

- 概算事業費については、当初の事業検討段階において類似事例等を調査し算出した。
- また、令和 6 年度に実施した「国道 139 号西富士道路新 IC 調査業務委託」において、概略設計を行い、関係機関との協議調整の上、具体的な施工方法や支障物件への対応等を考慮し再算出した。
- 社会資本整備総合交付金の活用を予定しており、事業費に対する補助率は 50%である。
- 今年度発注を予定する詳細設計において、更に増額となる可能性がある。
- 現在、国・県との費用負担について調整を進めており、国・県ともに協力いただけるよう、今後も強く要望を行う。

＜概算事業費の内訳＞

（千円）

	概算事業費（R6 算出）
ON ランプ	320,000
OFF ランプ	609,000
付帯工	604,000
合計	**1,533,000**

施工期間中の人件費・物価高騰を考慮し、事業費の上昇を見込む

（千円）

	概算事業費（上昇分を含む）
ON ランプ	400,000
OFF ランプ	800,000
付帯工	800,000
合計	**2,000,000**

財源として**社資交・国・県**からの費用負担を予定

※国道 139 号富士改良事業再評価において整理した物価上昇等の伸び率を踏まえ、約 30%の事業費上昇を見込む

6 事業の想定スケジュール

- 概算事業費は、上段で示した約 20 億円を基本とし、想定スケジュールを編成した。
- これまで本市で実施した交付金事業の状況を鑑み、令和 9 年度以降の年間事業費を約 2 億円と設定し、令和 8 年度から 17 年度までの 10 年間を施工期間と想定した。

＜想定スケジュール＞

（千円）

項目	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
本体工事（ONランプ）		400,000								
		100,000	100,000	100,000	100,000					
本体工事（OFFランプ）		800,000								
		100,000	100,000	100,000	100,000	200,000	100,000	100,000		
付帯工事（調整池・舗装・付属物等）	300,000	800,000								
							100,000	100,000	200,000	100,000
年度別合計	300,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	100,000

※交付金等の充当率や関係機関との協議状況により、スケジュールは変更となる可能性がある。

7 事業効果の整理

- 新 IC 整備により期待される事業効果を、**【2.新 IC の必要性】**で整理した「産業活動」、「交通」、「防災機能」、「地域・観光」という 4 つの視点から、以下のとおりにまとめた。

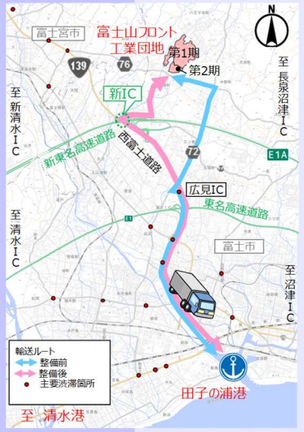
❶産業活動の支援　**❷交通渋滞の緩和**　**❸防災機能の強化**　**❹地域活性化・観光振興**

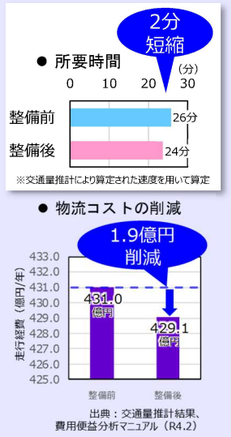
新 IC の整備

【2.新 IC の必要性】から再掲

❶ 産業活動

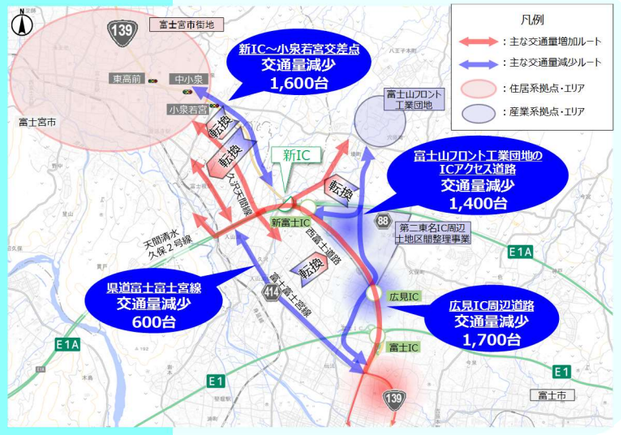
富士山フロント工業団地等から富士ＩＣや田子の浦港・清水港へのアクセス性が向上し、所要時間が短縮することで**輸送コストが減少**するとともに、企業立地が促進され**地域経済が活性化**





❷ 交通

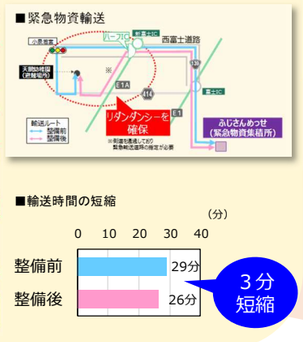
交通分散により、既存の主要渋滞箇所である【新ＩＣ～小泉若宮交差点】、【広見ＩＣ周辺道路及び県道富士富士宮線】等の交通量が減少し、**交通渋滞が緩和**



整備により期待される効果

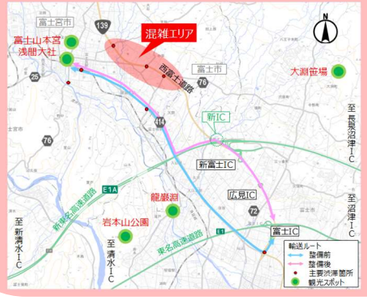
❸ 防災機能

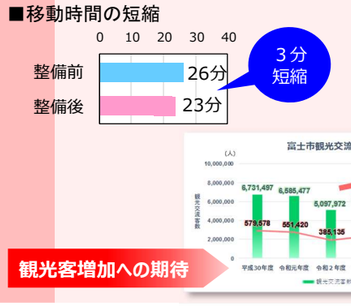
緊急物資集積所「ふじさんめっせ」から避難場所・救護病院等への**緊急物資輸送時間が短縮**するとともに、大規模災害時などに交通状況に応じたルート変更が可能となり、**リダンダンシー(予備機能)を確保**



❹ 地域・観光

周辺の地域や観光拠点・スポット等へのアクセスの向上により、スポット間の回遊性が増し、**地域の活性化に寄与**するとともに**観光客が増加**





（出典）令和 6 年度岳南エリア WG 資料、富士市観光基本計画【建設総務課加工】
※今後、短縮時間及びコストは変更になる可能性があります。

8 今後の課題・懸念事項

- 本事業を円滑に推進するため、事業費の確保、関係機関との調整、事業期間の長期化への対応等の課題及び懸念事項を解消する必要がある。庁内外の関係者と緊密に連携し、引き続き協議・調整を行いながら、着実な事業推進を図っていく。

主な課題・懸念事項	
	▼ 事業費の確保（国・県からの支援と交付金事業等の選定・活用）
	▼ 国・県・NEXCO 等との管理区分等に関する調整
	▼ 事業期間の長期化に伴う事業費高騰への対応　等